

消化器外科

食道・胃・大腸・肝臓・膵臓・胆道(肝門部・肝外胆管、胆のう、十二指腸乳頭部)
などの消化器がんの診療を担当します



3D内視鏡システムを導入！

立体視で腹腔鏡手術がよりスムーズ、より安全に

- ・診療の中心はがんに対する食道切除、胃切除、腸切除、肝切除、胆膵切除などの手術療法です。
- ・手術前後の抗がん剤治療も数多く担当しています。



関連診療科と密に連携し、消化器がんの標準治療から先端的治療まで安全・確実に遂行します。



当科の特徴

食道がん 胸腔鏡下、腹臥位で行い、術後合併症を低減しています。化学放射線療法も当院で行います。

胃がん 約半数が腹腔鏡手術となっています。術前化学療法も取り入れるなど進行がんの方の長期予後向上を目指します。

大腸がん 結腸、直腸ともに腹腔鏡手術が標準です。下部直腸がんでは術前化学放射線療法を組み合わせた肛門温存手術(ISR)を導入しました。

肝がん 肝機能を十分吟味し、患者さんにとって最善の治療選択を提供するよう心がけます。原発性肝がん、大腸がん肝転移などに対してメジャー肝切除、腹腔鏡手術を行っています。

胆膵がん 膵がん門脈合併切除などの高難度手術を行っています。ボーンラインの方などでは積極的な化学療法で根治(R0)切除と予後向上を目指します。

当科の診療方針：各疾患ガイドラインに準拠しますが、個々の患者さんにとって最善の治療を提供し満足して頂くことです。

1. 誠意をもって誠実に診療にあたる
2. 丁寧で十分な説明を心がけ、患者さんの理解と納得を得る
3. 厳重なりスク管理と医療安全の確保に努める
4. 先端医療など新しい情報や技術を常に取り入れ、外科チームとしての技量向上に努める
5. 消化器がんに関する臨床研究の推進、情報発信を行う

わたしたちのモットーは…

「チームワークで安心手術、
一に慎重、二に慎重、三、四がなくて五に慎重」



肝胆膵チームによる肝切除の手術風景